

【12月の気象】

「冬型の気圧配置が強まり、季節風が強くなっています」とテレビなどで聞かれる時期となりました。「冬型の気圧配置」とは、大陸に高気圧があって日本の東海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置を言います。また、日本付近から見てどの方角で気圧が高いか、低いかを表現した用語もあり、日本付近から見て西が高く東が低い気圧配置は、冬季に現れる典型的な気圧配置で「西高東低の気圧配置」とも呼ばれています。図1は、冬型の気圧配置の天気図です。一般的に、このような時には、全国的に北西寄りの季節風が強く吹き、日本海側では大雪となり、太平洋側では乾燥した晴れの天気となります。愛媛県では、季節風が関門海峡を吹き抜けてくるため、北西の風がさらに強くなり、寒気が強い場合には海上で発生した雪雲が県内に流れ込むことがあります。

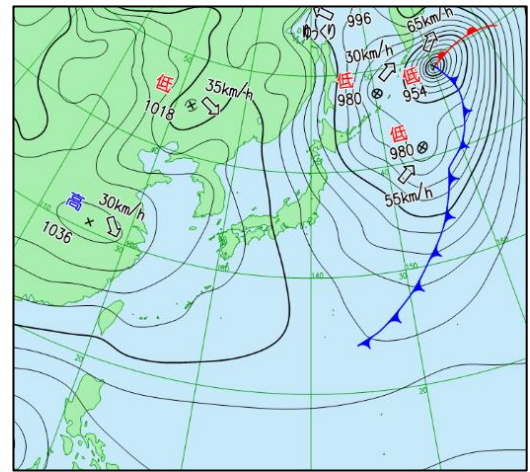


図1 地上天気図
(2021年12月18日09時)

【気象用語】「初冠雪」とは

冠雪とは、気象台から見て山頂（山頂が見えない場合は中腹）が雪、または白色に見える固形降水で覆われている状態であり、夏が終わった後、初めて観測した場合を「初冠雪」としています。松山地方気象台では、気象台から見て南東方向 約 17.5km にある標高 1270m の皿ヶ嶺（写真）を対象に観測しています。初冠雪は通常 11～12 月頃に観測されます。2022 年（寒候年）の初冠雪は、2021 年 11 月 24 日でした。この時は、日本海北部を低気圧が進んだ後、寒気が流れ込んだため初冠雪となりました。（図2：初冠雪時の地上天気図）

気象台では、冬の季節に特徴的な気象現象として、霜、結氷、冠雪、雪の初日を観測しています。平年では、12月上旬頃には中国大陸からの寒気が流れ込むことで、皿ヶ嶺では平地より一足早く雪が降り、初冠雪が見られ、平地では最低気温が0℃を下回る日も現れて、初霜、初氷が観測されます。12月中旬頃になると地上の気温も下がり平地で初雪が観測されます。

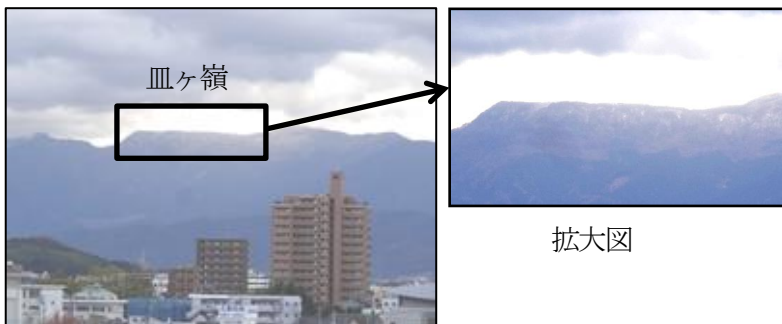


写真 松山市内から望む「皿ヶ嶺」
2021年11月24日 初冠雪

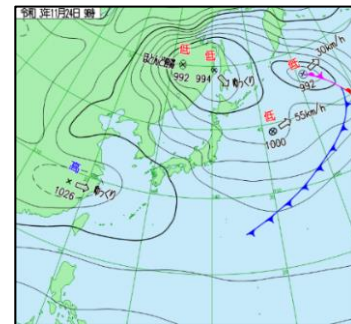


図2 地上天気図
(2021年11月24日09時)

表 松山市における冬の季節現象

寒候年 (※)	初霜	初氷	初冠雪	初雪
2022年 (R4年)	2022年1月10日	2021年12月26日	2021年11月24日	2021年12月17日
平年値	12月7日	12月7日	12月8日	12月19日

※「寒候年」とは、前年8月から当年7月までの1年間です。

例えば「2022寒候年」とは、2021年8月から2022年7月までの1年間です。